



ほり え ゆう じ
堀江祐爾
文化表現系教育コース教授



なる せ ま さ み
成瀬雅巳
兵庫教育大学附属中学校教諭

●「理論と実践の融合」に関する共同研究活動とは、兵庫教育大学のミッションの一つである「教育実践学の推進」をより一層図り、その成果を国内外に発信し、学校現場や教育委員会のニーズに応えるため、平成23(2011)年度から「理論と実践の融合」に関する学際的な共同研究を教員から公募し展開しています。

思考力・判断力・表現力を育成するために言語活動を取り入れた効果的な指導方法の研究 — 論理的に「話す・聞く」「書く」指導をととして —
(平成24・25年度「理論と実践の融合」に関する共同研究活動に採択)

本

研究は、国語の授業でグループでの相互作用を重視する教授法を用いて、①どのような課題を設定することが論理的に「話す力・聞く力」の育成につながるのか、②どのような「論理」モデルを構想や評価の過程で活用することが論理的に「書く力」の育成につながるのかという2点を検証し、それを基に全ての教科等で言語活動を充実させる指導方法を開発することを目的としました。

具体的には、兵庫教育大学附属中学校の3年生を対象に7時間の授業を行い、その前後に作文意識調査アンケートと作文テスト^①を行いました。単元の課題は「2030年までに原発をゼロとし、すべてのエネルギーを化石燃料と再生可能エネルギーで確保するべきである」というプランを出発点にして、どのような解決策があるのかを考える」とし、さまざまな立場のデータや意見を比較検討している資料を準備しました。そして、トウルミンモデルを

基にした「論理」モデル^②を活用してグループで課題解決のための論点を整理し、話し合いで社会的判断としての合意を形成し、最後に個人の意見をまとめる授業を展開しました。その結果、賛否が分かれる公

「グラフ」、論理的に「書く力」を獲得することが明らかになりました。このことから、まず1・2年生の間に「事実」「理由づけ」の違いを明確にした上で「主張」「事実」「理由づけ」の三角ロジックを扱い、3年生で

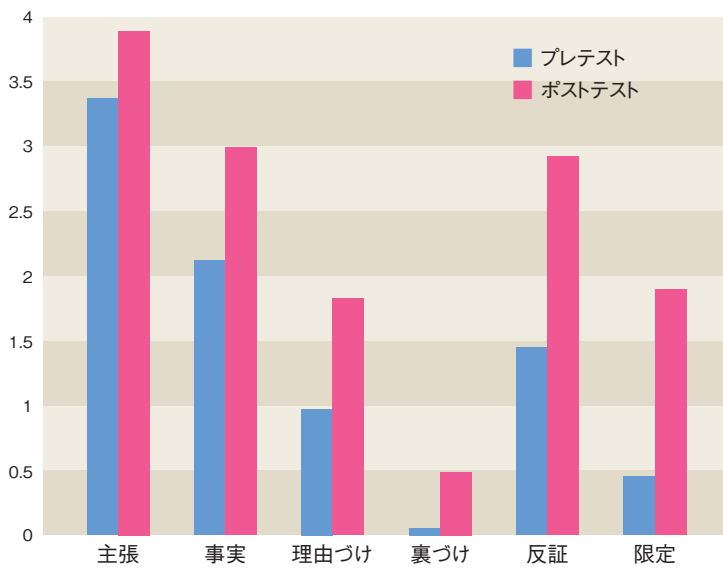
はトウルミンモデルについて指導することが、「書く力」を育てることに有効であると考えられます。附属中学校では、この研究成果を全ての教科等で指導に生かし、言語活動を充実させる取り組みを図っていきます。

共的な課題を設定することで、自分の考えを友達に分かりやすく根拠を示して話したり、友達の反論を理解しようとしつかりと聞いたりするなど活発な話し合い活動が行われ「例」、話し力・聞く力」が育成されること

【例】トウルミンモデルについて書かれた生徒の自由記述例

- 私はトウルミンモデルについて書きたいと思います。最初、私たちの班の人は私以外全員「反対」でした。しかし、トウルミンモデルに沿って自分の意見を言うと皆、納得してくれたのでとてもうれしかったです。また後日、「テストの花道」というテレビ番組で小論文の書き方が紹介されていたのですが、トウルミンモデルと同じようなことを言っていて驚きました。最初に何も見ずに書いた生徒の作文はその考え方をに入れるだけで、すごく良くなりました(テレビで)。全国の中学生でもトウルミンモデルを知っている人はほとんどいないと思うけれど、ぜひこの考え方は広めるべきだと思います。次から、作文を書くときにはこの考えを意識したいと思います。
- トウルミンモデルを用いて自分の意見を書いて、論理的に意見を表す方法を学びました。また、グループでの話し合いでは意見を交わして自分の考えを深めることができました。原発についての話し合いは難しく、班の中で意見が分かれ議論になりましたが、結果的に自分の納得のいく意見で、自分の考えを話し合うことができてよかったです。これからも「論理的に話す」ということが求められるときがあると思うので、この授業の経験を生かしていけたらと思います。

【グラフ】項目別作文評価得点 プレテスト<ポストテスト(平均値の向上)



- (1)…授業前のテストはプレテスト、授業後のテストはポストテスト
- (2)…「主張」「事実」「理由づけ」「裏づけ」「反証」「限定」の6項目から成る「論理」モデル